

会 議 録

1. 会議の名称 第2回熊取町廃棄物減量等推進審議会
2. 開催日時 平成30年10月16日(火)午前10時から
3. 開催場所 熊取ふれあいセンター4階ふれあいサロン
4. 議題 案件(1) 第2期熊取町一般廃棄物処理基本計画(中間見直し)案に対する意見・質疑等への回答書について
案件(2) 第2期熊取町一般廃棄物処理基本計画(中間見直し版)修正箇所等の確認について
案件(3) その他
5. 公開・非公開の別 全部公開
6. 傍聴者数 0人
7. 審議等の概要 案件(1) 第2期熊取町一般廃棄物処理基本計画(中間見直し)案に対する意見・質疑等への回答書について
【説明内容】
資料1を読み上げながら、資料2の修正箇所等を参照する形で事務局から説明が行われました。
【意見・質疑】
(上田会長)
資料1の1ページ渡辺委員①のところで、「野焼きの禁止」を削除した理由を記載しなくてはよいか」との意見に対する回答がないように思われるが。
(事務局)
農業従事上の例外として認められている野焼き以外は、ほぼ発生していない現状を踏まえ、計画に記載していた初期の目的は達成されているとの考えから割愛させていただいたもので、割愛した理由を計画上に記載することは文章が煩雑になるのではとの判断から見送ったものです。
(渡辺委員)
回答で説明をいただいたので、私自身は理解できるのですが、説明がないと現計画書から記載を省かれた理由も解らないので、目的を達成しているので

削除したといった一文があってもいいのではと思います。

(上田会長)

目的が達成しているので省略しましたと言う一文があれば理解しやすいと思いますのでよろしく願います。続いて渡辺委員の②ですが、台風21号に限定する必要があるのかと思うのですが、私が住む茨木市では24号で被災している家屋もあったものですから。やはり21号に限定した方がよろしいのでしょうか。

(渡辺委員)

大阪府全体から見れば他の台風も影響があったと思いますが、熊取町では瞬間最大風速が51mであり、被害を受けた家屋も多かったもので、そういったことから記載すべきではないかと思えます。

(梅田委員)

今回の台風21号に関しまして、町の対応は素早く非常に良かったと思います。大量のごみが出てどうなるのかと思いましたが、翌日から回収に当たってくれて助かりました。

(上田会長)

家の前に出しておけば、少し時間はかかるが回収に回るといった素晴らしい対応であったと思います。続いて渡辺委員の⑤でもう少し説明をして欲しいとありましたが、先程の事務局の説明でよろしいですか。

(渡辺委員)

魚あらについては大阪府の基本計画で議決されたということですか。

(事務局)

大阪府、府内市町村、府内清掃組合で構成する協議会で各構成団体が基本計画に位置づけていくことが確認議決され、直近の計画見直しで盛り込んでいくとされたところです。

(渡辺委員)

協議会で決められたから盛り込んだということですね。理解できました。

(體谷委員)

魚あらの方の要請とは事業者だけですね。一般の方に対して魚あらを集めてということではないですね。

(事務局)

事業者が対象です。

(鯉谷委員)

要請をするということは今までそうしなかった事業者がいたということでしょうか。普通のごみとして捨てている方もおるので、資源化するように指導を行うためこういった要請を行うこととなったのか。

(事務局)

魚あらの処理リサイクルの体制づくりを行うため平成6年から大阪府、府下市町村等が集って結成している大阪府魚腸骨処理対策協議会から、民間の企業である小島養殖漁業生産組合に府内で発生する魚あらの処理を委託しています。その処理費用につきましては協議会構成団体からの負担金でまかっています。平成20年度以降はリサイクルにより生産される魚粉の販売収益により処理費用は無料となっています。こういった状況の中で、府内の事業者からは小島養殖漁業生産施設組合に魚あらが集ってきておりますが、府外で魚あらを有償で買い取る事業者があり、魚あらが一部府外へ流出している模様でこの流れが加速し、小島養殖漁業生産施設組合への魚あらの搬入量が減少すれば、現在収益が出ている魚粉販売も採算がとれなくなることが想定され、将来的には処理リサイクル費用が有償化し、協議会としても排出者負担の原則に基づき事業者に費用負担を求めていく必要も生じてきます。また、小島養殖漁業生産組合の経営が窮地に立てば、今まで構築してきた魚あらの処理リサイクル体制の維持継続にも支障を来すこととなります。こういった背景がございます。

(上田会長)

わかりました。続いて渡辺委員の⑦にある災害廃棄物処理基本計画ですが、この審議会での審議事項となりますか。

(事務局)

災害廃棄物処理基本計画につきましては、本審議会でも審議いただくということではなくて、災害の対策ということで計画を立てます。審議会を立てるかどうかは別としまして、事務局で計画を立てまして場合によっては皆様のご意見を聞くようなこともあるかどうかは現状では決まっていないですが、目処としては来年度計画策定に着手したいと考えています。

(上田会長)

鱧谷委員の①ですが熊取町ではごみゼロ推進員さんは、皆さん積極的に引き受けてやっていただけるのでしょうか。

(鱧谷委員)

地域差があるように思います。また自治会単位で選出されますが、その方の力量で積極的になされる方もそうでない方もおいでになるように感じます。ごみゼロ推進員という制度がせつかくあるので、推進員がするべき内容を取り決めてもいいのではと思ったんですが。

(上田会長)

きっちりと決めてしまうとしんどくなる方もおいでになるとも思うんで悩ましいですね。事務局側としても今後研修会等を通じて、より理解を深めてもらえるように努めるということですので、様子を見たいと思います。

(藤井委員)

小型家電の回収についてなんですが、今役場と煉瓦館、駅下にぎわい館、図書館、ひまわりドーム、環境センターに回収ボックスを設置されてますが、今後この回収箇所数は増えないのでしょうか。私たちの周辺の人はこの回収をされているということをほとんど知らなくて、なぜかと思ってのですが、今設置されている場所は何か目的を持って行かなくてはいけない場所に設置されて、スーパーの片隅にでもあれば利用できると思うんですが、そうなればスーパー側の協力もいると思いますが、回収箇所は今後増えて行くのかこのままで限定されるのかお聞きしたいんですが。

(事務局)

小型家電の取り組みですが小型家電というカテゴリーができて、国の方で小型家電に含まれるレアメタル、希少な金属をリサイクルしていこうという取り組みが開始されました。熊取では国のモデル事業に手を挙げまして、小型家電の回収ボックス導入や委託先に支払う小型家電の運搬委託料、レアメタルの抽出作業委託料を補助金により賄う形でスタートし、モデル事業期間終了後も、委託先の大栄環境と協議してレアメタルの販売収益を原資として引き続き無償で小型家電の回収を行ってもらっています。

(上田会長)

拠点を一点増やすにはどれくらいの予算がかかる

んですか。

(事務局)

それは増やすかどうかの議論になると思うんですが、制度が始まったときは6か所の拠点から町の職員が回収してきまして、1月に一度大栄環境に取りにきてもらっていたのですが、採算が合わないとのことで今では3月に一度になっています。これを箇所を増やしますと採算面の問題が出てきますので、今は基本的に0円で運べる範囲内で相手方をお願いしているので、増やすことは難しいと考えています。

(上田会長)

増やして欲しい、場所を考えて欲しいということは要望事項としてどうでしょうか。

(梅田委員)

どうせおくなら、もうちょっと捨てやすい場所にしてほしいとしてはどうか。

(上田会長)

6か所の内の何か所かを、もう少し使っていただきやすい設置場所へ設置換えの再検討については事務局いかがですか。

(事務局)

まったく申し訳ないのですが、当初に設置場所について検討しましたときに先進の事例を当たらせていただいたのですが、おっしゃるようにスーパーに置かれているところもございました。そこでの問題としていろんなものが入られる事、土日は一度に量が増えて、容量オーバーになるので回収の要請があり担当の職員が休日に出勤し対応しなくてはならない等の問題があるとのことから、スーパー等の人の出入りが多いところはなかなか難しいと考え見送っております。

(上田会長)

せっかく設置するんであれば本来は捨てやすいところに町民の皆さんの為だと思うんですけどね。この件はこの審議会で審議検討することと思うんですが事務局の考えはどうですか。

(事務局)

この基本計画に書いてあることは当然そういうことです。

(上田会長)

設置場所を増やす、設置場所を変更することを今後の検討課題と計画に盛り込めますか。

(事務局)

答申いただければ可能です。

(福谷委員)

小型家電の回収量は増えてきているんですか。

(事務局)

一定で推移しています。

(福谷委員)

増えて行ってほしいのですか。レアメタルが増えれば業者さんも喜ぶのではないですか。

(事務局)

細かい話をしますと、小型家電の種類によりましてレアメタルの含まれているの量の違いがあり、ノート型パソコン等の高品位のものはいいんですが、ドライヤーとか日用品にはほとんど含まれていませんので、環境課としては積極的に回収を増やしていきたい気持ちはありますが、回収の費用が新たに発生することから躊躇します。高品位のものばかり集めることができたらいいのですが。

(上田会長)

小型家電について答申にいられていただいて今後検討するというところでよろしいですね。

(樋谷委員)

新聞紙や段ボールは資源ごみとして出すんですが、その他の紙でチラシとかは業者さんは持って行ってくれるのですが。計画にもその他の紙のことは書いてないので、町の回収で持って行ってくれるんでしょうか。

(事務局)

事務局では紙製容器包装、これは基本計画にも書かせていただいておりますが、キャラメルやお菓子の箱については可燃ごみで出して欲しいというのが今の状況です。これを分別するには皆様にお手数を掛けることとなりますので、ごみの量が増えてきた時にごみの量を減らす手段として資源ごみとして分別いただくという考えがございまして、適切な時期に効果的な導入ができるように引き続き検討と基本計画に書かせていただいております。新聞紙の中にチラシが混ざっていてよいかとのお話ですが、細かい話ですが新聞紙だけ出していただく場合と、新聞紙にチラシが混ざっている場合では業者に引き取ってもらう場合の金額が違います。チラシが混ざると安くなります。

役場としましてはできたら分けていただければ高く売れるということはあるんですが、持続可能というところも考えており、あまりガチガチなお願いも難しいと考えています。

(辻本委員)

子供会の資金集めの為、地域で業者の新聞回収に協力してますが、チラシが混ざってない方が高く買い取ってくれることが皆が知ればもっと集める資金が増えますので、その辺はハッキリした方がいいんじゃないんですか。

(事務局)

今申しあげている町から業者への引き取り価格で子供会単位の価格は解りません。

(上田会長)

町としてはチラシ等は今は可燃ごみの範疇で、今は資源ごみとしての分別は町民の方のお手間も考えて求めているが、いずれごみを本当に減らさないといけない時には紙製容器包装の分別を求めることになるかもしれないということですね。

(事務局)

新聞だけにすると売り払いの部分では儲かるわけですが、チラシを可燃ごみとして処分しなければならなくなりその経費も必要になってきますので、一概にどちらがいいか悩ましい所もあります。

(上田会長)

他になにかありませんか。

(下中委員)

もう少し小さいゴミ袋を作ってほしいんですが。それって費用が余計にかかるんですか。単身世帯では今のサイズではなかなか一杯まで貯めることができず、冬場はいいんですが、夏場は困ります。

(山本里佳委員)

反対に私は集合住宅に住んでいますので、今ある200と450のサイズですが真ん中が欲しいんです。泉南市なんかでは200、300、450があるんですよ。今は200では足らなかったら200を二つ出すか、450に半分くらいで出すかもったいない出し方でやっています。近所でも泉南市のように300あればいいねという意見を聞きます。

(上田会長)

今の200、450となった経緯はどうですか。

(事務局)

回りの自治体での採用が多かったことです。100の必要性については町としても検討しているんですが作った自治体に聞いてみますと100は数がでないと言います。また300も必要かなとは思いますが、いろんな種類を作りますとコストがかかるといった問題が出てきます。

(上田会長)

町が指定したごみ袋を作る業者は2種類の袋を作っているんですが、それ以外の業者に委託して作ることはどうですか。

(事務局)

各団体単位でデザインしてごみ袋を作成しています。町の使う量しか発注しません。各団体が同じごみ袋を使うのであればスケールメリットも働くとは思いますが、一般廃棄物の処理は市町村の独自となっており、値段も違うといった状況です。その中で熊取町の使う分を入札により発注し、1年分を作成しています。

(下中委員)

ごみ袋の値段が違うということは、ごみの処理代が違うということですか。

(事務局)

考え方です。どこまで負担いただくかの考え方です。全額負担していただくとなんなごみの袋代だけではどうも足りません。その中で一部分を負担していただいております、それをどこまでするかが各市町村が決めてやっているところです。

(上田会長)

他のサイズの袋の必要性はわかるが、そこまでお金をかけられるかと事務局としては考えているといったところですね。

(渡辺委員)

熊取は200の袋が1枚10円、450は20円ですが、近隣市町は101円で20020円で450は45円としています。熊取は安いんです。その値段を維持しようとしたら、他のサイズを作ったら01円に値上げしなければならないといったことも考えられるので、そういったコストを抑えることも考えることが必要だと思います。

(梅田委員)

種類を増やせば値段も上がるということですね。

(上田会長)

わかりました。ほかにごさいませんか。なければ鱧谷委員からご意見としていただいております小型不燃ごみの地域定期回収についての件に移らせていただきたいと思いますが、事務局からもう一度説明をお願いします。

(事務局)

粗大・不燃ごみ有料制（電話申込制）の運用は平成19年度から開始してございまして、平成24年度からはインターネットによる申込みも行っています。電話等で申込みいただければ、日時を指定して自宅前まで個別に回収に伺わせていただいております。また、拠点回収については、平成26年から役場、駅下にぎわい館で開始し、現在では協力3店舗を加えた町内5箇所（注）で小型不燃ごみを回収しており、地区公民館等に一齐に持ち寄る形で排出し、本町職員が回収にうかがう地域回収も平成29年度から併せて実施しております。

小型不燃ごみの電話申込みですが開始から11年が経過し、住民の皆様にも制度として浸透をみてきたところですが、今後とも広報等を通じましてさらなる周知を行ってまいりたいと考えております。本制度を利用いただいた方には、日時指定の自宅前における回収でその利便性を実感いただいているものと考えております。一方、小型不燃ごみの地域定期回収を開始する場合には、収集運搬にかかる費用が新たに発生すること、ステーション方式による回収となることから自宅前での回収でなく最寄りのごみ置き場まで排出いただく必要が生じること、住民の皆様に着するまでの間、誤った曜日のごみ出しによる取り残しや、一時的に不法投棄を誘発する恐れがあること等の課題点が考えられるところです。

(上田会長)

素晴らしいシステムやと思います。電話したら家の前までとりに来てくれるんですから。私の住んでる茨木市では考えられません。鱧谷委員の①のご意見いただいたのは電話申込みではなくて、定期的に回収に来てくれないかということなんですね。

(鱧谷委員)

お年寄りなんかはわざわざ電話するのも大変で、また回収が割りに早い時間に取りに行きますと言われるので出しにくいと言われる方がいらっしまし

て、朝7時とか8時とかの回収が多いみたいで、私はあまり出したことがないのですが。

(上田会長)

地域定期回収となると、小型不燃ごみは収集場所に持っていかないといけないですね。

(鱧谷委員)

いえ電話して置いておいてもいけるんですよ。いつも出しているプラスチックごみの回収に併せて小型不燃ごみも一緒に出せるような日を作ってもらえたらなど、それが難しいのであれば、3か月に一度でもそういった日を作ってもらえたらと思うんです。

(上田会長)

どっちが楽かですよ。電話をするのが楽なのか持って行くのが楽なのかですよ。

(鱧谷委員)

ごみ出しの時に地域の方で出しにくいという方がいれば、ごみゼロ推進員の方が行って出してくれたり、近所で助け合って出したりとか、普通のごみでもそういった形を取ってくださいという形なので、プラスチックごみの2月か3月の一回の時に小型不燃だけを取ってくれないかと、そういう風にしていただけたら、この前の台風の時に見受けられた便乗のごみ出しも減ると思います。

(上田会長)

大型の粗大ごみと普通の可燃ごみがあって、普通の可燃ごみは決められた曜日にステーションに出すと、大型の方はこのシステムで電話して日時を指定して取りに来てもらいます、小型不燃ごみはどっちに入れるかという話ですか。

(鱧谷委員)

そうです。私はプラスチックごみ回収日の何か月かに1回にステーションに持って行き、電話せずに持って行ける方がいいと思います。

(上田会長)

電話をすれば即日回収いただけるんですか。

(事務局)

翌週あたりでの調整となります。

(上田会長)

皆さんからの意見も頂戴したいとおもいますが。

(辻本委員)

これから高齢化社会が進んで行く中で、電話で申

し込みをするとか、ステーションまでごみ出しをするといったこともできないようなことも多発し、誰かがフォローしなくてはできない時代が来ると思います。

(上田会長)

地域としてのサポート体制というか独居老人のごみ出し等をお手伝いできるようなボランティアが育っていないとしんどいということですね。

(辻本委員)

今後高齢化がどんどん進み、自分自身も実感しており、今は助けてもらえなくても何とかやっていますけど、独居とか家族のいない方は一人で何もかもとできればとうていできません。

(上田会長)

この問題は熊取町の別の部署で真剣に取り組むべき問題ではあると思います。ただ確かに歩いてごみ出しするのが不自由なお年寄りの方が増えてくるでしょう。その時にごみの捨てるルールをどうするかという議論になるのかなと思います。

今回の審議で皆さんのご意見を頂きたいのは、小型不燃ごみというカテゴリーのものを地域定期回収がよいのか、今までやっている電話申込みがよいのかといったことです。

(渡辺委員)

私の意見は事前に提出していますように、電話申込みしたら家までとりに来てくれるという制度を知らない方がまだ多いということで、環境センターまでわざわざ持って行かなければいけないと思っている方も多から、自分たちが年を取って車も乗れないようになれば持っていけなくなった時にどうするのと相談を受けることもあり、その時は電話すれば家の前まで取りに来てくれますよと説明すれば、そういうことであればその方が便利だと言ってくれます。

(上田会長)

なるほど。渡辺委員から頂戴している意見では、粗大ごみも含めてすべて、こういうシステムがあるのに知らない方が多いということでしたね。

(渡辺委員)

大きな家具等につきましても、運びだしサポートとって役場職員の方がお手伝いしてくれる制度があり、電話で2階にある家具いらんといえば2階から下ろして持ってかえてくれるんです。皆そういっ

たことをしらないんです。

(上田会長)

素晴らしい制度ですね。鱧谷委員の意見や、渡辺委員の意見に対しての事務局からの回答は周知に努めますと書かれていますが、具体的にどう周知するのかが一切書かれていないんですが、我々も病院では正措置に対する報告書を出すときに周知しますでは駄目で、具体的な周知方法と周知した後のアウトプットも提出する必要があります。

(梅田委員)

以前にごみ出しマニュアルを町内全戸に配布したんです。ところがそれを意識して見ている人が圧倒的に少ないんです。だから認識していない。特別にこれはいい制度ですと回覧なりを回せばみんな見てくれると思うんですが、普段の配布物の中に紛れ込んで配っても見過ごされてしまうと思います。

(上田会長)

周知方法も大事だということですね。

(梅田委員)

そうです。以前全戸配布したものを家に置いておいたらいいが、ほとんどの方は捨ててると思います。うちの自治会でもごみの出し方がわからんと問題がでたので、役場に相談したら以前全戸配布したマニュアル見せてもらって、運び出しサポート等の紹介をした回覧を回したんです。

(上田会長)

自治会や婦人会等を通じての方法も可能ですか。

(阪口委員)

婦人会としましては、自治会はたくさんあるんですが、婦人会参加は7地区であり、すべての住民の方に周知ということは婦人会からは無理です。

(上田会長)

事務局からいいアイデアはないですか。

(事務局)

例年広報での周知はさせていただいておりますが、地域の回覧板などを今後は利活用させていただき周知できたらなと思います。

(上田会長)

ありがとうございます。小型不燃ごみに関するご意見は他にございませんか。

(鱧谷委員)

小型不燃ごみを地域で回収することもこのごろ増

えてきているんですよ。いままで電話申込みが不便であったという事で地域でやっていると。全国的にも地域拠点で小型不燃を、お鍋一つだけでも出せるといったところも全国的には多いんですよ。小型不燃物を有料袋に入れてというのは全国的にも少ないと、大型は電話して取りにきてもらったりする形が多いんです。割れたお茶碗とかで指定袋が一杯になるまで長い間置いとくのは大変やと思うんです。

(上田会長)

指定袋とはどのようなものですか。

(鱧谷委員)

200の袋です。割れたお茶碗とか瀬戸物類で使わなくなった物を集めて入れる、250円の不燃物の袋を買ってきていれるんですが、2、3か月に一回収集拠点にもって行けば取ってもらえる形にしていた方がいいと思います。

(福谷委員)

おっしゃっているのは無料にしろということですか。

(鱧谷委員)

まあそうですね。大きな粗大については別ですが他のところは無料が多いと思います。

(上田会長)

現状では250円と有料でということですね。

(鱧谷委員)

プラスチックごみと一緒に回収してもらうにはどれだけ値上がりするかはわかりませんが、以前議会で質問したときに年間の小型不燃ごみの量はそれほど多くないと聞いてます。

(福谷委員)

ペットボトルはリサイクルに回しますが茶碗等についてはどうですか。

(事務局)

ペットボトルはリサイクルしていますが、茶碗等の不燃物は行っておらず粉砕処分します。

(鱧谷委員)

200分一杯まで集めるまでには1年ぐらいかかるとおもうのですが、小型不燃ごみの量も以前町にお聞きしたこともあったんですが、何か月かに一回かで各地域で割ったらそれほど積む量というのは多くなかったと思ったんですが、それやったらそうしてもらえないかなと思ったんですが。

(上田会長)

パブリックモニターの藤井委員の意見はどうでしょうか。

(藤井委員)

小型不燃は出したことないです。

(梅田委員)

直接環境センターまでもって行ってます。だいたい1か月に1回ぐらい持って行ってます。一人暮らしの方の分とかも一緒にもって行ったりしてます。

(體谷委員)

車に乗られる方はね。ほとんどの方がもって行っているんで、乗れない方で出しにくい方は地域の拠点に持っていったら引き取ってもらえるというふうにしてもらえたら一番ありがたいなと思います。

(梅田委員)

高齢化の波が押し寄せてくる中で、地域の助け合い、周り近所の助け合いが必要になってくると思います。いつか自分も助けてもらうことになるんですから。

(渡辺委員)

小型不燃ごみを地区というか区で集めて、区でもって回収する方法も町へ申出されればできるんです。自治会で場所を決めてそこに出して、自治会でそれを環境センターにもって行くことも地区によって決めていけばできるんです。

(上田会長)

その場合の袋代はかからないのですか。

(渡辺委員)

費用は地区の負担です。

(事務局)

二パターンございまして、袋で出していただいで一箇所に集めていただいたら町が回収させていただく方法と、自治会さんで車を用意していただいで環境センターへ直接搬入していただき、環境センターで従量制により費用をお支払いいただく方法があります。直接搬入の場合は袋に入れていただく必要はありません。

(上田会長)

キロなんぼで引き取ってくれるということですね。基本的に有料ということですね。

(體谷委員)

地域回収を自治会でやっているということですが、やっているところとそうでないところとどういう感

じですか。そののところはどういうふうに進めようと思っ
ているのですか。

(事務局)

これは昨年から始めた取り組みでございまして、実
際の件数としては2、3件やったと思います。これに
つきましては、しなさいというものではございません。
こういうやり方もありますという提案をさせていただ
いて、共感いただける自治会の皆様には協力いた
だいているといった立場ですので、広報の方は私たち
の力不足で申し訳ないので、これはちゃんとさせてい
だきたいとおもいますが、この取り組みは自治会さん
のご協力の下に町でやらせていただいているとい
うところでございます。

(上田会長)

わかりました。今ここでご審議いただかないといけ
ない熊取町一般廃棄物処理基本計画書の中に小型不
燃ごみ地域定期回収をするのか記載するかどうかと
いうことを検討しなくてはいけないということで、今
ご意見を伺っていると、もう少し煮詰めていかないと
いうか、梅田委員がおっしゃるように別の組織で地
域住民がみんなまとめて持って行くような仕組み
ができれば細かく議論する必要もなくなるのでは私
はそう感じますが、今回第2期中間見直しにこれを盛
り込む必要はどうでしょうか。

(渡辺委員)

この計画の中には見直しについて適宜検討する
なってますしね。

(上田会長)

その辺で現時点ではいいような、どうですか鱧谷
委員。

(梅田委員)

さっき言ったようにねこれから高齢化が進んで、
ごみを出せない方が増え、サポートしていくためには町
としての役割としてフォローの仕方も必要と思いま
す。

(上田会長)

この審議会の議事録でこんなんが出たよを、その
方面に伝えていただいて、この計画には今のところ
そこまで詳しくする必要はないかと考えます。

(梅田委員)

もうひとつ言わせてもらいたいんですが、ごみの
処理費用が高つくのであれば、私はごみ袋の値段も上

げざるを得ないかなという感じを持っています。それなりのサポートしてもらったらそれなりの資金はいると解ってるんです。審議会が出てくる問題だと思ってるんです。

(上田会長)

ありがとうございます。

(藤井委員)

一点確認ですが、P 4 4 の先程の小型不燃ごみのところで記載するかしないかで気になったのですが、「排出の利便性向上のための高齢者や障害者のみを対象とした運び出し」のところで「のみ」となっているんですが、のみとなってしまうと高齢者という判断も、どこからが高齢者なのか解りにくいし、障害といった文言を持ち出すと、運び出しの電話をしたにも関わらず断られてしまったりとかあると思うので、例えば「のみ」という文言ではなくて「役場の判断に委ねる」であるとかではどうか。

(上田会長)

P 4 4 の 1 行目ですが、「高齢者や障害者のみ」と書いてあるのを、「町が必要と認めた世帯に対して」というようにもう少しファジーに協力していただけそうな感じにという表現は事務局、難しいですか。

(事務局)

町が以前全戸配布したマニュアルには、「高齢者などご自身で粗大・不燃ごみを家の外に運び出せない方」という表現となっておりますので、その辺の整合も必要かと。現実的には柔軟な対応をさせていただいております。

(梅田委員、渡辺委員)

「のみ」を「等」に変えたらいいと思います。

(渡辺委員)

「障害」の「害」はひらがなでお願いします。

(上田会長)

事務局、そのようにお願いします。他にございせんか。なければ案件 3 のその他に移らせていただこうと思いますが、その他で事務局の方からお願いします。

(事務局)

その他でございしますが、去る本町 9 月議会の一般質問におきまして、本日審議会委員として参画されております渡辺議員から、食品ロス削減の一つの手段として月曜日を食品ロス削減の日と設定し「食ベマNDER」運動を推進してはどうかとの提案がございました。

事務局環境課と致しましては、食品ロスを削減するにあたり各家庭での気づきのきっかけ作りとして効果的な提案と考えておるところでございますが、せっかくの機会でございます。審議会のご意見をお伺いしたいと存じます。この取り組みにつきましては本計画上、資料2の44ページの(7)にございます食品ロス抑制のPRとして位置づけられるものでございます。月曜日を食品ロス削減の日と設定し、「食べマンデー」運動を推進する、この提案に対する委員各位のご意見を頂戴いたしたく、よろしく願いいたします。

(上田会長)

食品ロスを削減するための取り組みというところで、これに対する渡辺委員がキャッチコピーを考えていただいて、住民の皆様に理解していただく言うことですね。

(梅田委員)

月一でなく週一でやるんですね。

(渡辺委員)

「月曜日は食べマンデー」です。

(上田会長)

それに対してこの審議会として何か意見ということですが、いいと思うんですが。

(事務局)

事務局環境課としましては前向きに検討してまいりたいと考えてますが、委員の皆様にもそれに対してどういった意見があるのか参考までに伺えたらと考え、お願いしています。

(上田会長)

非常にセンスがあると思います。月曜日に冷蔵庫の中さらってという感じですね。いいと思います。頭に残りやすいキャッチコピーですし。

(渡辺委員)

学校でも給食、結構残ると言っていたんで、月曜日は子ども達に「今日は食べマンデー」と言ってしっかりと食べてもらうということで、子ども達にも意識してもらえと考えます。

(上田会長)

「ノーマイカーデー」みたいな感じですね。

(梅田委員)

ごみゼロ推進員の意識付けにもなりますね。

(上田会長)

このキャッチコピーを使った推進運動は私は素晴

らしいとは思いますが、みなさん意見があれば。

(石飛委員)

月曜日ということですが、日曜日では。

(渡辺委員)

枚方市が日曜日に「食残サンデー」でやっています。

(上田会長)

熊取町は月曜日に「食べマンデー」ということで審議会としても積極的に協力して推進して行こうということ、事務局としてもそれによろしいですか。

(事務局)

はい、ありがとうございます。

(上田会長)

その他でなにか。

(事務局)

事務連絡でございますが、次回の第3回審議会につきましては、資料3にお示ししておりますが、平成30年12月20日木曜日に開催させていただきたいと存じます。次回は最終回となりますので、答申案をご審議いただきました後、町長に対し上田会長から答申を行っていただく予定となっております。また、本日もご審議いただいた内容も踏まえて答申案を取りまとめさせていただき、次回審議会開催に先立ち事前に委員各位に案文を送付させていただきます。案文で修正すべき点等ございましたら事務局までご連絡いただきますよう宜しくお願いいたします。

(上田会長)

事前に配っていただけますので、字句の訂正がなされているかチェックできますね。本日の案件はすべて終了いたしました。これにて第2回の審議会を終了します。ありがとうございました。

8. 審議会の情報

名称	熊取町廃棄物減量等推進審議会
根拠法令等	廃棄物の減量化及び適正処理条例 廃棄物減量等推進審議会規則
設置期間	平成16年4月1日から
所掌事務	本町における廃棄物の減量及び適正な処理その他町長が必要と認める事項に関すること。
委員数	15名

9. 担当課

環境課

